

平成 20 年度第 5 回議事録

日 時 平成 21 年 1 月 7 日 (水) 14:00～17:00

会 場 地盤工学会 3 階会議室

委員長	末政 直晃	○	委員	浅田 英	○	委員	森川 嘉之	×
委員	石川 明	×	委員	森田 宏	×	委員	スレン ソッキアン	○
委員	國分 章子	○	委員	笹倉 剛	○	オブザーバー	片桐 雅明	○
オブザーバー	伊藤 政人	×	オブザーバー	竹内 秀克	×			
事務局	浅野	○	事務局	永田	○			

○：出席， ×：欠席， △未定

◎本日の議事録作成担当者 (笹倉 委員)

議事録 (スレン⇒浅田⇒石川⇒國分⇒森川⇒スレン)

1. 報告事項

1-1. 前回委員会 (11/7 開催) 議事録確認 (作成者：スレン委員) 別紙 1

→2-2JGS カード更新についての学会誌掲載文案は末政委員長の担当とする。

→2-3 委員会規程については、守秘性などについての委員会規程とポイント付けの方法などについての規程について、末政委員長の担当で文案を作成し、次回委員会で審議する予定。

→その他の事項については承認された。

1-2. 前回会員・支部部会報告 (11/12 開催) 別紙 2

→永田事務局員より、来年度の本委員会の活動予算について承認された旨、報告があった。

- ・ 「最近の CPD ポイントの弊害」とは、団体間のポイント付与ルールが統一されていない点のことで、相互認証システムを構築した次のステップの活動が求められている。

- ・ 部会での宿題については、末政委員長が対応済。

1-3. 前回広報委員会報告 (12/2 開催) 別紙 3

→浅田委員より、学会内 LAN リース契約の見直しによる 180 万円の経費削減の決定、1/8 から新 HP が公開されることなどの報告があった。

1-4. 外部団体会議報告

☆日本工学会 PDE 協議会

- ・ 12/4 開催 第 10 回 CPDWG 委員会 別紙 4

→伊藤オブザーバー欠席につき永田事務局員より報告があった。

- ・ 現在、CPD ガイドラインを作成中.

☆建設系 CPD 協議会

- ・ 11/17 建設技術者の継続教育を考えるシンポジウム
→片桐オブザーバーより報告があった.
- ・ 参加者約 90 人（前は 100 人超）で、地盤工学会からも末政委員長が活動内容を発表.
- ・ 現状は団体間の情報交換会になっている. 個別の具体例については個別の団体で行うべきで、今後の開催に向けて議論すべき課題出しが必要. 次回の開催時期は未定.
- ・ 部会は次回は 3 月に開催予定.

2. 審議事項

2-1. JGS カード切り替え作業について 別紙 5

- ・ 追加資料
→既にメールで経緯報告済であるが、昨年 12 月の末政委員長、永田事務局とメテオの打ち合わせの席で、メテオから経営上の理由により 4 月以降の保守契約の可否見通しが 1 月末まで立たないため、地盤工学会で他のシステムメンテ会社の選定を並行作業で進めてもらいたい旨の申し入れがあった.
- ・ 現在学会では、岐阜の NPO キャルステーションに問い合わせ中だが、心当たりのあるメンバーは永田さんへ連絡する.
→サーバーの置き場所が未確定のため発注は見合わせている状態だが、納品期間が必要なため先に発注作業のみを進めることとする.
→学会誌への周知文案は末政委員長が作成する. 新カードのイメージは巻頭のカラーページなどに掲載する方向で検討する.
→新カードの位置付けは会員証+CPD カードとし、基本デザインは国分委員案を進める. デザインについては以下の通りとする.

(表)

- ・ 「◀」と「JGS」を白色でカード最上部に追記する.
- ・ 氏名と会員番号の文字は 1 ポイント大きくする.
- ・ 「PREMIUM」の標記は下地を青色文字は金色 1 色にする.
- ・ CPD ポイント達成者 (50P/年) 用の「☆」は 1 年で 1 つ申請に応じて付与することとし、学会名の上の位置に右詰めで、「社団法人」の文字のポイント大の銀色で表示する.
- ・ 緑化工学会からシステム共有の申し入れがあるため、学会毎に会員番号の頭にアルファベットをつける. (緑化工学会ではテレカ型カードを 1 月に発送予定で、当面硬・軟両方の運用を行う)

(裏)

- ・ 「1.本カードは会員証兼 G-CPD カードです。」を最初に追加し、以下順次番号繰り下げる。
- ・ 最後に「8.紛失・盗難時には有料で再発行します。」を追記。
- ・ 学会名のポイント数を必要に応じて小さくし、左側に学会ロゴを追加。

2-2. 緑化工学会のプログラムの扱いについて 別紙6

→両学会間の契約書、覚書を確認したところ、連携の内容はシステムの相互利用までで相互認証ではないため、返答案案は原案が良い。現時点で緑化工学会プログラムが建設系コンサルタント協会の CPD ポイントと認定されるためには、緑化工学会が建設系 CPD 協議会メンバーになる必要がある。

(以下笹倉コメント：文中の「地盤工学会とは、CPD の相互認証契約を締結しておりますから、このプログラムは地盤工学会 G-CPD プログラムとして認定されます」も修正する必要があるのでは?)

→今後、相互認証に向けて連携の内容について契約内容の見直しを検討する。

2-3. G-CPD システム保守会社について 別紙7

→2-1 で審議済

2-4. 次年度委員について 別紙8

→浅田委員に後任候補を検討していただく。

→H22 年度建設系 CPD 協議会会長候補としてオブザーバー参加を末岡理事に末政委員長から打診する。

→H21 年度の検討予定内容：システム、規約制定、ポイント達成者認定、相互認証（緑化工学会）など

→その他、基礎地盤からの委員参加要請ほかについては継続協議とする。

次回委員会開催日 :平成 21 年 3 月 4 日 (水) 地盤工学会 3階 中会議室